

2018年冬季ボーナスアンケート調査

今冬のボーナス予想支給額は、「同じくらい」の回答割合が増加
～製造業は悪化、非製造業は改善～

2018年冬季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを官公庁・民間企業で勤務する給与所得世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

○ボーナス支給額の増減予想（昨年冬比）

全体では、「上回る」が10.3%、「下回る」が12.8%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲2.5（昨年冬▲2.6）と、昨年冬とほぼ同じマイナス幅となった。一方、「同じくらい」は76.9%となり、昨年冬と比べ2.7ポイント増加した。民間企業では、製造業は2年ぶりに悪化し、非製造業は3年連続で改善した。

○ボーナス予想支給額

『40万円未満』が全体の6割超を占めた。昨年冬に比べ「20万円未満」が最も増加した（25.5%、昨年冬比3.3ポイント増）。

○ボーナスの使い道

昨年冬に比べ全体的に変化幅が小さく、引き続き「預貯金」が首位となるなど、堅実な消費姿勢が続く。

○ボーナスを貯蓄する目的

「老後の生活への備え」が最多となった。上位5項目の昨年冬との比較では、「耐久消費財の購入」が3位から2位に上昇した一方、「特に目的はないが安心だから」が2位から3位に下降した。

○ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が約7割で最多となった。リスク性商品では、「株式」が減少したものの、「投資信託」は増加した。

【調査概要】

1. 期 間：2018年11月1日～11月16日
2. 対 象：鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法：山陰合同銀行本支店の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,485枚）、返信用封筒にて回収
4. 回 答 数：有効回答数 603枚（回収率24.3%）
（県別内訳：鳥取県290枚、島根県309枚、不明4枚）

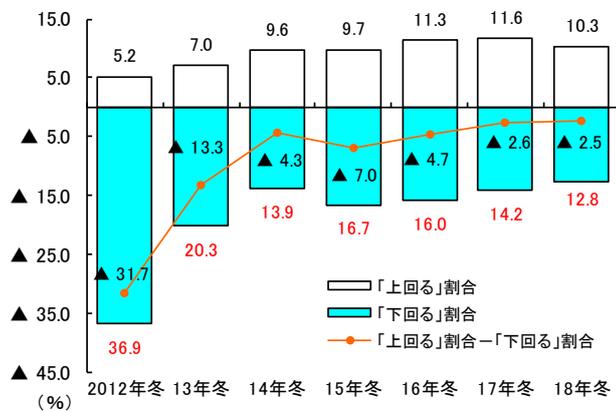
設問 1. 今年の冬のボーナス支給額は昨年の冬に比べてどうなると予想されますか？

～全体は「同じくらい」の回答割合が増加、
製造業は悪化、非製造業は改善～

①全体

今年の冬のボーナス支給額について、昨年冬と比較して「上回る」と予想する世帯割合※は、10.3%（昨年冬比1.3ポイント減）、「下回る」は12.8%（同1.4ポイント減）、「同じくらい」は76.9%（同2.7ポイント増）となりました。

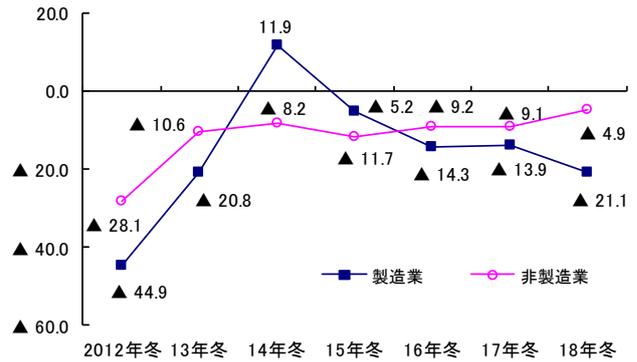
「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲2.5で、昨年冬からほぼ横ばいとなりました（昨年冬比0.1ポイント改善）。図示していませんが、県別にみると、鳥取県は0.0（同1.0ポイント改善）、島根県は▲4.2（同0.3ポイント改善）となり、ともに改善しました。



※上記割合は、「支給なし」を控除して算出している。「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の15.3%となる。

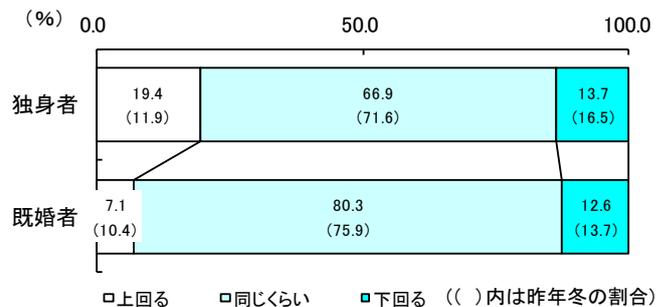
②製造業・非製造業別

民間企業に勤務する世帯を対象として、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値の推移をみると、製造業は2年ぶりに悪化し、非製造業は3年連続で改善しました（製造業：▲13.9→▲21.1、非製造業：▲9.1→▲4.9）。



③独身者・既婚者別

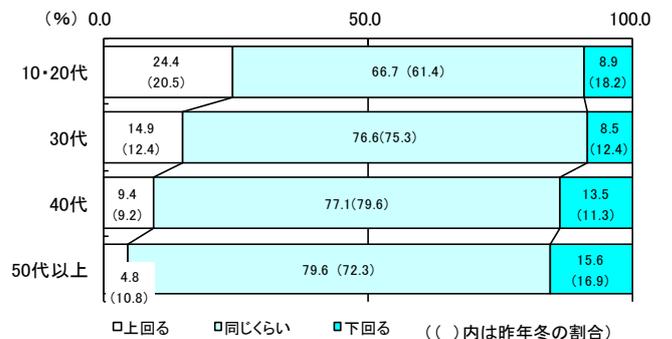
独身者・既婚者別にみると、独身者は「上回る」が19.4%（昨年冬比7.5ポイント増）と昨年冬から増加しましたが、既婚者は7.1%（同3.3ポイント減）と昨年冬から減少しました。



④年代別

年代別にみると、昨年冬と比べて「上回る」は10・20代で3.9ポイント、30代で2.5ポイント、40代で0.2ポイント増加し、50代以上は6.0ポイント減少しました。

一方、「下回る」は10・20代で9.3ポイント、30代で3.9ポイント、50代以上で1.3ポイント減少し、40代で2.2ポイント増加しました。



※四捨五入の関係で合計が100%とならない場合がある、以下同。

設問2. 今年の冬のボーナス支給額(税込)は、どのくらいになると予想されますか？

～『40万円未満』が全体の6割超を占める、
「20万円未満」の割合が最も増加～

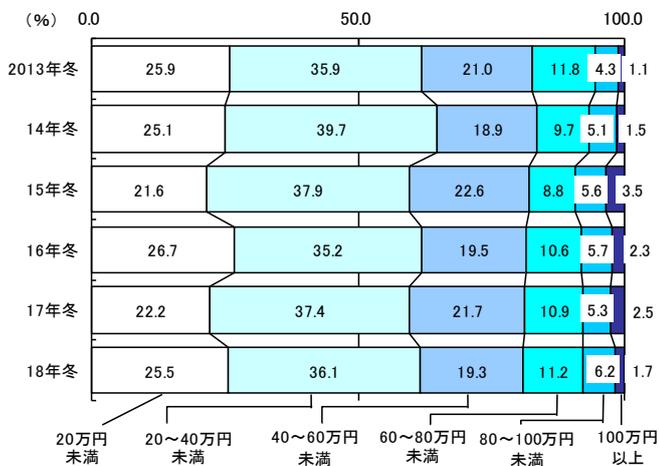
①全体

今年の冬のボーナス予想支給額で最も多いのは「20～40万円未満(36.1%)」となり、以下、「20万円未満(25.5%)」、「40～60万円未満(19.3%)」と続きました。

『40万円未満』(「20万円未満」、「20～40万円未満」の合計)で全体の6割超(61.6%)を占めています。

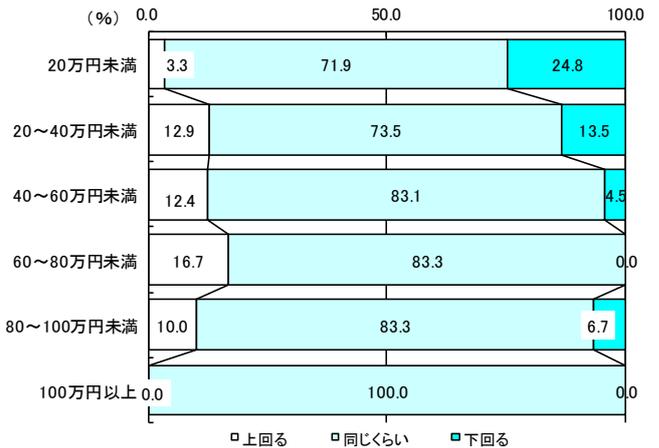
昨年冬と比べ、「20万円未満(昨年冬比3.3ポイント増)」が最も増加し、「40万円～60万円未満(同2.4ポイント減)」が最も減少しました。

一方、『60万円以上』(「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計)についてみると、19.1%(昨年冬比0.4ポイント増)と、昨年冬と比べて増加しています。



②支給額区分別増減予想の割合

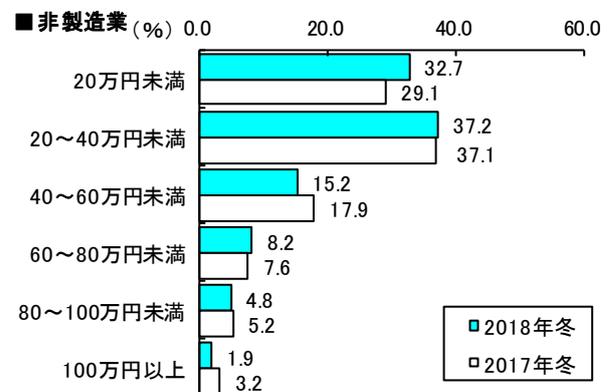
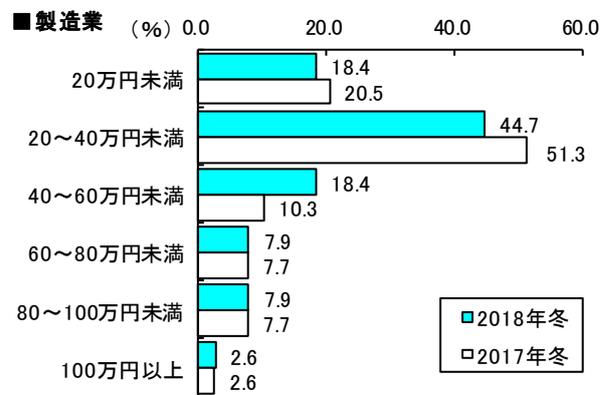
支給額区分別に、増減予想(設問1の回答)の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は「60～80万円未満(16.7%)」で、以下、「20～40万円未満(12.9%)」、「40～60万円未満(12.4%)」と続いています。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満(24.8%)」で、以下、「20万円～40万円未満(13.5%)」、「80～100万円未満(6.7%)」と続きました。



③製造業・非製造業別

製造業・非製造業別にみると、昨年冬と比べ、製造業は「40～60万円未満(18.4%、昨年冬比8.1ポイント増)」が最も増加し、「20～40万円未満(44.7%、同6.6ポイント減)」が最も減少しました。

非製造業は「20万円未満(32.7%、同3.6ポイント増)」が最も増加し、「40～60万円未満(15.2%、同2.7ポイント減)」が最も減少しました。



設問3. 今年の冬のボーナスはどのようにお使いになりますか？

～首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続～

①全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、上位3項目は「預貯金 (46.1%)」、「生活費補てん (17.0%)」、「借入金返済 (10.3%)」となり、例年通りの順位となりました。

昨年冬と比べると（その他を除く、以下同）、「預貯金 (46.1%、昨年冬比 1.7 ポイント増)」、「借入金返済 (10.3%、同 0.4 ポイント増)」、などの割合が増加した一方、「旅行・レジャー (6.4%、同 1.0 ポイント減)」、「学費 (5.9%、同 0.8 ポイント減)」などの割合が減少しました。

②独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年冬に比べ最も増加した項目は、独身者が「借入金返済 (8.5%、昨年冬比 2.1 ポイント増)」、既婚者

が「預貯金 (42.6%、同 1.5 ポイント増)」となり、最も減少した項目は、独身者が「衣料品 (5.5%、同 2.8 ポイント減)」、「生活費補てん (11.8%、同 0.1 ポイント減)」となり、既婚者が「学費 (7.4%、同 1.5 ポイント減)」となっています。

③年代別

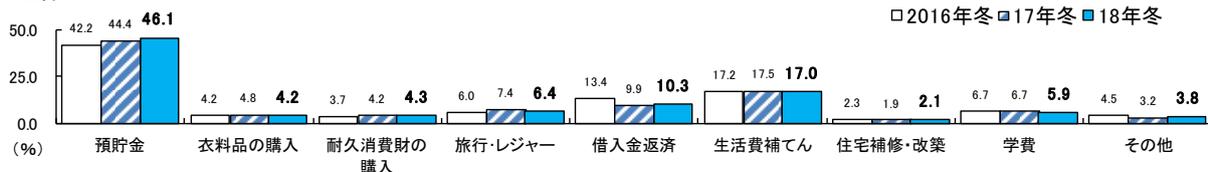
年代別にみると、すべての年代で「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年冬に比べ最も増加した項目は、10・20代は「預貯金 (58.3%、昨年冬比 8.3 ポイント増)」、30代、40代は「借入金返済 (30代:8.8%、同 4.1 ポイント増、40代:12.5%、同 3.5 ポイント増)」、50代以上は「生活費補てん (22.3%、同 2.5 ポイント増)」となりました。

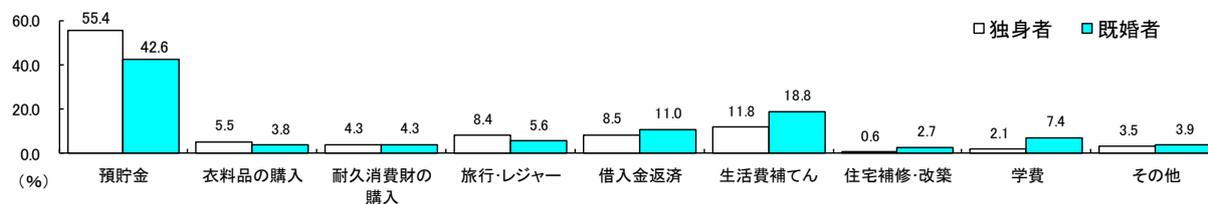
一方、最も減少した項目は、10・20代、50代以上は「借入金返済 (10・20代:6.3%、同 7.7 ポイント減、50代以上:10.1%、同 2.6 ポイント減)」、30代は「預貯金 (54.2%、同 4.2 ポイント減)」、40代は「学費 (8.2%、同 4.0 ポイント減)」となりました。

昨年冬に比べ全体的に変化幅が小さく、引き続き「預貯金」が首位となるなど、堅実な消費姿勢が続いています。

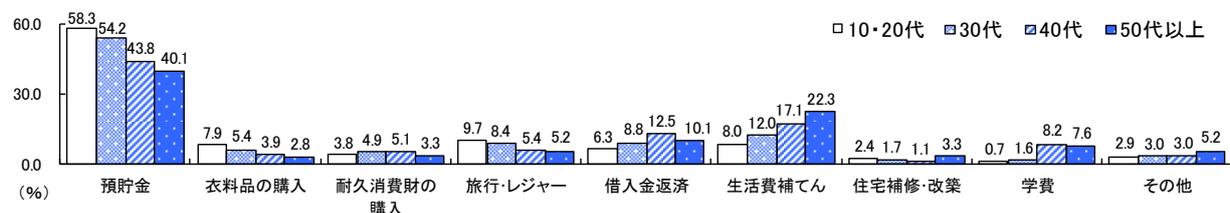
■全体



■独身者・既婚者別



■年代別



「その他」の回答として、「車検費用」、「保険料」、「年末年始費用」等がありました。

設問4. ボーナスを貯蓄（投資）する主な目的は何ですか(3つまで)?

～「老後の生活への備え」が最多、

「耐久消費財の購入」の回答割合が増加～

ボーナスを貯蓄（投資）する場合の主な目的（3つまで）をたずねたところ、上位5項目は「老後の生活への備え（52.5%）」、「耐久消費財の購入（42.0%）」、「特に目的はないが安心だから（38.4%）」、「教育資金（38.2%）」、「病気・災害への備え（26.8%）」となりました。

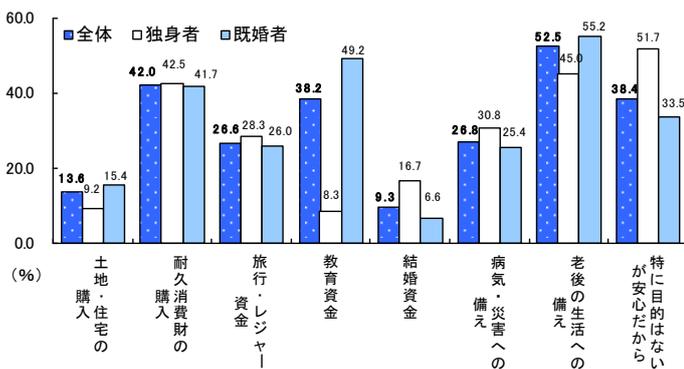
上位5項目の昨年冬との比較では、「耐久消費財の購入」が2.7ポイント増加し、昨年冬の3位から2位に上昇しました。一方、「特に目的はないが安心だから」は6.5ポイント減少し、昨年冬の2位から3位に下降しました。「耐久消費財の購入」や「教育資金」など、目的を持った計画的な出費に備えた貯蓄を増やす動きがみられます。

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者が「特に目的はないが安心だから（51.7%）」、既婚者が「老後の生活への備え（55.2%）」となりました。

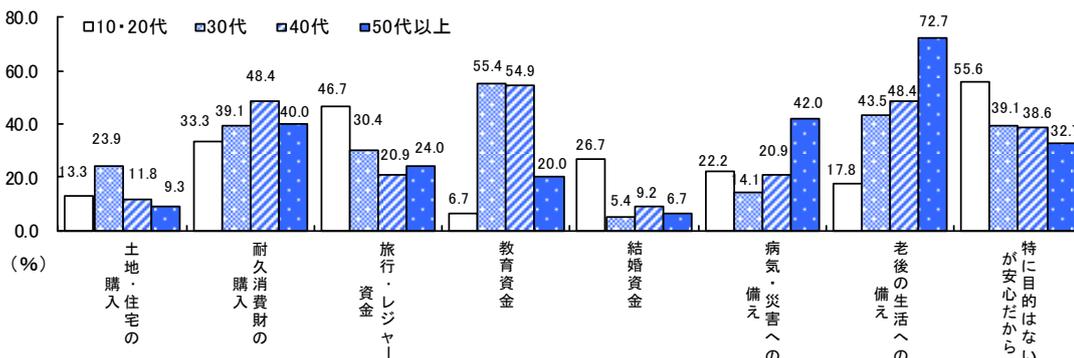
また、昨年冬に比べ最も増加した回答は、独身者が「耐久消費財の購入（42.5%、昨年冬比8.2ポイント増）」、既婚者が「老後の生活への備え（55.2%、同3.2ポイント増）」となり、最も減少した回答は、独身者が「旅行・レジャー資金（28.3%、同7.8ポイント減）」、既婚者が「特に目的はないが安心だから（33.5%、同7.7ポイント減）」となりました。

年代別にみると、昨年冬に比べ最も増加した回答は、10・20代、50代以上が「耐久消費財の購入（10・20代：33.3%、同7.2ポイント増、50代以上：40.0%、同4.6ポイント増）」、30代が「教育資金（55.4%、同16.3ポイント増）」、40代が「土地・住宅の購入（11.8%、同3.5ポイント増）」となりました。最も減少した回答は、10・20代が「結婚資金（26.7%、同14.6ポイント減）」、30代が「病気・災害への備え（14.1%、同11.2ポイント減）」、40代が「特に目的はないが安心だから（38.6%、同7.6ポイント減）」となりました。

■全体及び独身者・既婚者別



■年代別



《上位5項目》

(単位: %)

	2017年冬	2018年冬
1位	老後の生活への備え 51.3	老後の生活への備え 52.5
2位	特に目的はないが安心だから 44.9	耐久消費財の購入 42.0
3位	耐久消費財の購入 39.3	特に目的はないが安心だから 38.4
4位	教育資金 35.5	教育資金 38.2
5位	病気・災害への備え 30.1	病気・災害への備え 26.8

**設問5. 冬のボーナスを貯蓄（投資）される場合
どんな方法でされますか（複数回答）？**

～「銀行普通預金」が約7割と最多、

「投資信託」の回答割合が増加～

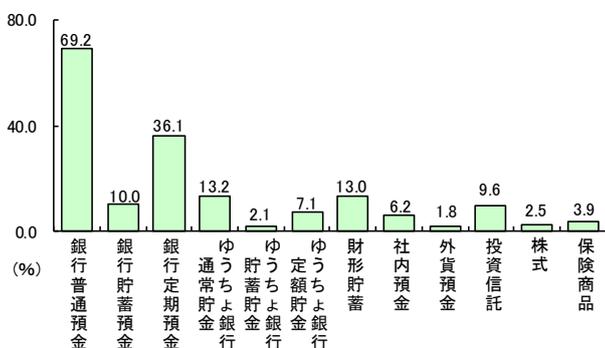
ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「銀行普通預金（69.2%）」となり、以下、「銀行定期預金（36.1%）」、「ゆうちょ銀行通常貯金（13.2%）」、「財形貯蓄（13.0%）」、「銀行貯蓄預金（10.0%）」と預貯金に集中する結果となりました。

昨年冬と比べた上位5項目の順位は、「ゆうちょ銀行通常貯金（4位→3位）」が上昇し、「財形貯蓄（3位→4位）」が下降しました。また、順位は変わらないものの、「銀行普通預金」が昨年冬比3.4ポイント減少、「銀行定期預金」が同0.7ポイント減少しました。長引く低水準の金利状況が影響しているものと考えられます。

また、リスク性商品については、最も多かった回答は「投資信託（9.6%、昨年冬比1.2ポイント増）」となり、以下、「保険商品（3.9%、同1.7ポイント減）」、「株式（2.5%、同2.3ポイント減）」、「外貨預金（1.8%、同0.3ポイント増）」と続きました。米国の長期金利の上昇や国際的な通商問題など、不確実性が高まる海外情勢等を背景に、「株式」が減少しました。一方、国内の低水準の金利状況や将来への備えなどから「投資信託」は増加傾向となりました。

予想支給額別（金額階層3区分*）にみると、最も回答割合の高い商品は『40万円未満』、『40～80万円未満』、『80万円以上』のいずれの層も「銀行普通預金」となっています。「投資信託」は昨年冬に比べ、『40万円未満』、『40～80万円未満』で増加しています（40万円未満：7.3%、昨年冬比1.6ポイント増、40～80万円未満：12.5%、同1.7ポイント増）。背景としては、2018年1月から導入された「つみたてNISA（少額投資非課税制度）」が影響しているものと考えられます。

■全体



(注) 上記以外：「その他（1.4%）」、「外国債券（0.9%）」、「公社債（0.5%）」、「貸付・金銭信託（0.2%）」

《上位5項目》

(単位：%)

	2017年冬	2018年冬
1位	銀行普通預金 72.6	銀行普通預金 69.2
2位	銀行定期預金 36.8	銀行定期預金 36.1
3位	財形貯蓄 17.0	ゆうちょ銀行通常貯金 13.2
4位	ゆうちょ銀行通常貯金 13.7	財形貯蓄 13.0
5位	銀行貯蓄預金 11.7	銀行貯蓄預金 10.0

■予想支給額別（※金額階層3区分 □40万円未満 □40～80万円未満 ■80万円以上）

